

事例報告に関する倫理的配慮チェックリスト

本学会誌に投稿する事例報告は下記のチェックリストを用いて、倫理的配慮について確認してください。

- 1. 個人情報責任者（病院長・看護部長・施設長など）の許可を得たか。
- 2. 本人から直筆による同意を得たか。本人が死亡している場合や意思決定能力が低下している場合には、代理人（家族など）から同意を得たか。
- 3. 本人等の写真は1枚ずつ掲載の同意を得ると共に、必要最小限の掲載とし、被写体の背景等にも注意したか（ベッドネームの患者名など）。特に顔写真は目隠しのみで十分かなど慎重に検討し、絵図で主旨が伝わる場合には切り替えたか。
- 4. 本学会の「研究倫理ガイドライン」の『3.6.事例を含んだ研究における注意』を確認し、該当する内容について、研究者が行った配慮について明記しているか。
- 5. 個人が特定されないように、以下の点を含め配慮した記載になっているか。
 - 個人特定可能な氏名、生年月日、住所は記載しない（データ収集も不可）。
 - 個人名の実名表記や部分表記（山○太○など）およびイニシャル表記はしない。本人の個人名とは関連性のない表記にする（Aさん、A氏など）。
 - 実年齢は記載せず、○歳代前半などと記載する。
 - 生活史や病歴などに関連する固有名詞は記号を用いる（B市、C病院など）。ただし、事例の特性上、「出身地・地域」を表記する必要がある場合は、他の情報との関連性によって、個人が特定されないように注意する。
 - 所属施設から個人が特定される「当院」などの表記はしない。
 - 経過年は、発表者の関わり開始をX年として、X+1年、X-1年と記載する。
 - 入院経過や家族構成、職業などの情報は、事例理解に必要な最低限とする。

なお、日本老年看護学会倫理審査委員会の倫理審査を希望される場合には、以下の2つの条件を満たすことを確認した上で、下記事務センターにご相談ください。

- 1) 所属施設等の倫理審査委員会に倫理審査を申請したが、審査対象外となった場合
- 2) 研究代表者が会員である場合